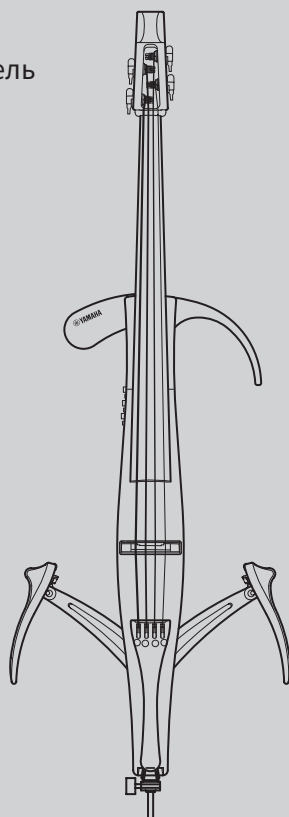




SILENT *Cello*TM

SVC300C

Electric Cello
Violoncelle électrique
Электрическая виолончель
电大提琴
電大提琴



取扱説明書

Owner's Manual

Benutzerhandbuch

Mode d'emploi

Manuale di istruzioni

Manual de instrucciones

Manual do Proprietário

Руководство пользователя

使用说明书

使用説明書

사용설명서

JA EN DE FR IT ES PT RU ZH-CN ZH-TW KO

日本語

English

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Русский

简体中文

繁體中文

한국어

FCC INFORMATION (U.S.A.)

1. IMPORTANT NOTICE: DO NOT MODIFY THIS UNIT!

This product, when installed as indicated in the instructions contained in this manual, meets FCC requirements. Modifications not expressly approved by Yamaha may void your authority, granted by the FCC, to use the product.

2. IMPORTANT:

When connecting this product to accessories and/or another product use only high quality shielded cables. Cable/s supplied with this product MUST be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

3. NOTE:

This product has been tested and found to comply with the requirements listed in FCC Regulations, Part 15 for Class "B" digital devices. Compliance with these requirements provides a reasonable level of assurance that your use of this product in a residential environment will not result in harmful interference with other electronic devices. This equipment generates/uses radio frequencies and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interference harmful to the

operation of other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interference will not occur in all installations. If this product is found to be the source of interference, which can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is being affected by the interference.
- Utilize power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter/s.
- In the case of radio or TV interference, relocate/reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to co-axial type cable.

If these corrective measures do not produce satisfactory results, please contact the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Yamaha Corporation of America, 6600 Orangethorpe Avenue, Buena Park, CA 90620, U.S.A.

The above statements apply ONLY to those products distributed by Yamaha Corporation of America or its subsidiaries.

(529-M04 FCC class B YCA 02)

COMPLIANCE INFORMATION STATEMENT (Supplier's declaration of conformity procedure)

Responsible Party: Yamaha Corporation of America
Address: 6600 Orangethorpe Avenue,
Buena Park, CA. 90620, U.S.A.
Telephone: 714-522-9011
Type of Equipment: Electric Cello
Model Name: SVC300C

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- 1) this device may not cause harmful interference, and
- 2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

(529-M02 FCC sdoc YCA 02)

IMPORTANT

Please record the serial number of this unit in the space below.

Model

Serial No.

This serial number is located on the bottom or rear of the unit.

Retain this Owner's Manual in a safe place for future reference.

This applies only to products distributed by
YAMAHA CORPORATION OF AMERICA.

(Ser.No)

はじめに

このたびはヤマハサイレントチェロ™ SVC300C をご購入いただき、まことにありがとうございます。

本製品は、胴体部分をフレームのみのシンプルな構造とすることで静粛性と運搬性を実現し、場所を選ばずヘッドホンを使って夜間でも練習できる全く新しいタイプのチェロです。楽器本来の共鳴胴を持たないシンプルな構造でありながら、新搭載の SRT POWERED システム* によって、アコースティック楽器本来の自然な音と響きを再現します。製品の機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願い申し上げます。

* 『SILENT cello™』『サイレントチェロ™』および SILENT *Cello*™ のロゴはヤマハ株式会社の登録商標です。

* SRT POWERED システム：
「チェロが本来持つボディ共鳴音を高品位なマイクロフォンでスタジオ録音したサウンド」をリアルタイムでシミュレートして付加する技術

目次

安全上のご注意.....	4
ご注意.....	6
同梱品一覧.....	7
各部の名称.....	8
演奏準備.....	11
調弦をする / 弦の交換をする.....	11
胸当てをつける.....	14
エンドピンを調節する.....	14
うで当てをつける.....	14
ひざ当てをセットする.....	15
電源の準備.....	16
電池を使う.....	16
家庭用コンセントから電源を取る.....	16

基本的な使い方.....	17
ヘッドホンで演奏する.....	17
チェロ本来の響きをつける.....	17
リバーブ (残響効果) 機能を使う.....	18
トーンコントロール機能を使う.....	18
チューナーを使う.....	19
オートパワーオフ機能を切り替える.....	20
演奏を終了する.....	20
もっと進んだ使い方.....	21
外部機器に音を出力して演奏する.....	21
スマートデバイスなどの音楽と 合わせて演奏する.....	22
付属ソフトケースについて.....	23
本体仕様.....	24

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、

お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お客様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

分解禁止



本製品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理や交換できる部品はありません。

水に注意



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。電源アダプターは、室内専用のため屋外では使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合は、すぐに電源アダプターのプラグをコンセントから抜く。(電池を使用している場合は、電池を本体から抜く。)

- ・電源コード / プラグが破損した場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または別紙のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

電源 / 電源アダプター



電源アダプターは必ず交流 100V に接続する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、指定のもの (24 ページ) を使用する。

(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発火などの原因になります。



濡れた手で電源アダプターのプラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

お手入れをする際は、必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。



電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

ショートして火災や感電の原因になります。



電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。



タコ足配線をしない。

コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



雷が鳴りだしたときは、本製品や電源プラグに触らない。

感電の原因になります。

注意

電源 / 電源アダプター

 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

 電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

 長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になります。

電池

 指定 (24 ページ) 以外の電池を使用しない。
電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。

- 種類の異なる電池と一緒に使用しない。
- + / - の極性表示とは異なった方向に電池を入れない。
- 長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体に入れたままにしない。

発熱、火災、液漏れ、故障の原因になり、やけどやけがなどのおそれがあります。

 使い切りタイプの電池は、充電しない。
充電すると液漏れや破裂の原因になります。

 乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。
失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

 電池は子供の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。

 電池を分解しない。
電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどや失明のおそれがあります。

 電池を火の中に入れない。
電池を下記の場所に置かない。

- 直射日光のあたる場所 (日中の車内など) や火の近くなど極端に温度が高くなるところ
- 温度や気圧が極端に低いところ
- ほこりや湿気の多いところ

破裂や爆発により、火災やけがの原因になります。

 充電式ニッケル水素電池を使用する場合は、電池の取扱説明書の指示に従う。

電池に付属の取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。また、充電電池の充電は、必ず専用の充電器をご使用ください。専用器以外を使用すると、電池が発熱、液漏れ、破裂するおそれがあります。

 電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。

 電池を保管する場合および廃棄の場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

他の電池や金属製のものと混ぜると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。

接続

 すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

 演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

運搬 / 設置

 本体を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行う。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が悪倒したりするおそれがあります。

 不安定な場所に立てない。
床に寝かせて置いてください。機器が悪倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

 楽器の移動の際は、ネックとチェロ本体ボディを持つ。

ひざ当てやうで当てのみを持って楽器を持ち上げると、故障の原因となります。

取り扱い

 可動部を動かす際、指や手などをはさまないように、十分注意する。

けがをするおそれがあります。

 大きな音量で本製品やヘッドホンを長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。

-  小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。
-  本体のすき間に手や指を入れない。また、うで当てやオプション品の取り付け時に指などを傷めないように注意する。
お客様がけがをするおそれがあります。
-  本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々けがをしったりする原因になります。

-  弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎない。
不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。また弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。

付属ソフトケースについて

-  破れたり裂けたりした状態で使用しない。またソフトケースやケースストラップをむやみに振り回さない。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

ご注意

製品の故障、損傷を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- ・直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体や、本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ・適度な湿度 / 温度が保たれる場所で使用 / 保管してください。
木材を使用した楽器は大変デリケートです。過度に乾燥する環境での使用 / 保管はフレーム等のひび割れの原因になります。
- ・サイレントチェロ™の出力端子から送る音声信号を、直接、または外部機器を経由してサイレントチェロ™の入力端子に、絶対に戻さない。
発振を起こし、内部機器の損傷の原因になります。
- ・テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を使用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体が変色 / 変質する原因になります。
- ・使用後は、必ず電源を切りましょう。
[⏻] (ON / スタンバイ) スイッチを切った状態（画面表示が消えている）でも微電流が流れています。この状態での消費電力は、最小限の値で設計されています。
- ・本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。
- ・使用済みの電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄してください。

■ 製品のお手入れについて

お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ 付属ソフトケースについて

- ・ソフトケースに本製品以外の機器を収納しない。
- ・ソフトケースに本製品を収納した状態で、落としたり強い衝撃を与えない。
本製品が破損する原因になります。
- ・直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところに保管しない。
変色 / 変質する原因になります。
- ・薬品や油類の近くに置かない。
変質の原因になります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

■ お知らせ

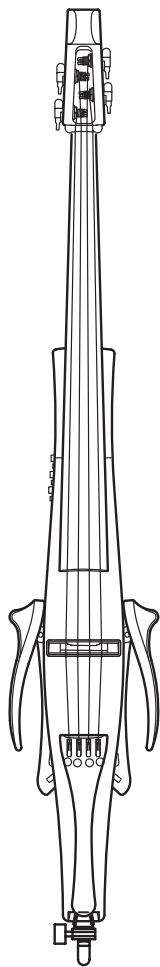
- ・この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

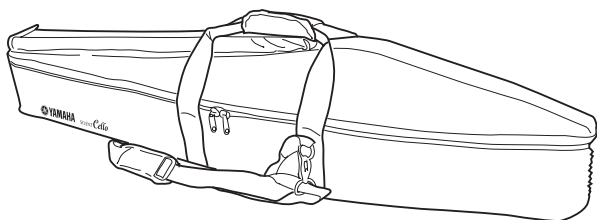
同梱品一覧

以下のものが同梱品として揃っていることを確認してください。

● 本体 × 1



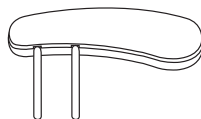
● ソフトケース × 1



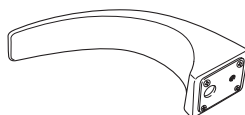
● 駒 × 1



● 胸当て × 1



● うで当て × 1

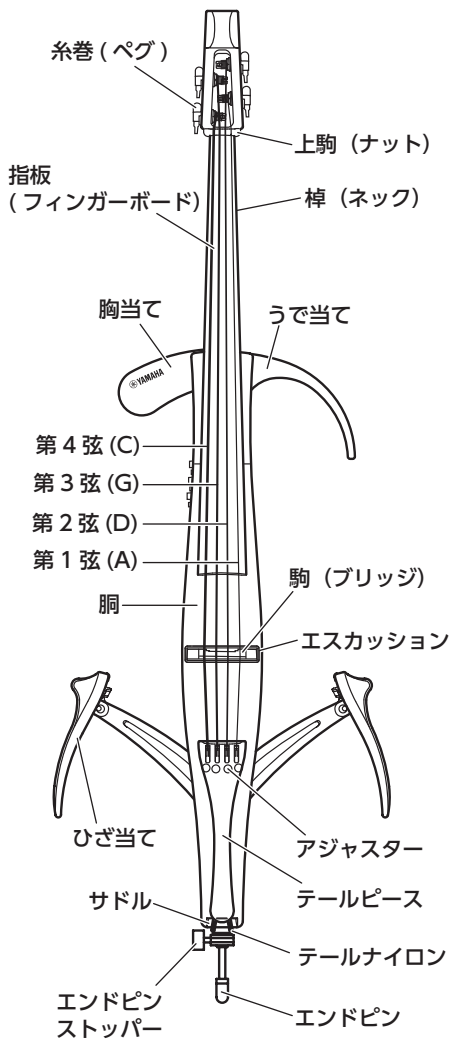


※ 電源アダプター (別売) : Yamaha PA-3C、PA-130

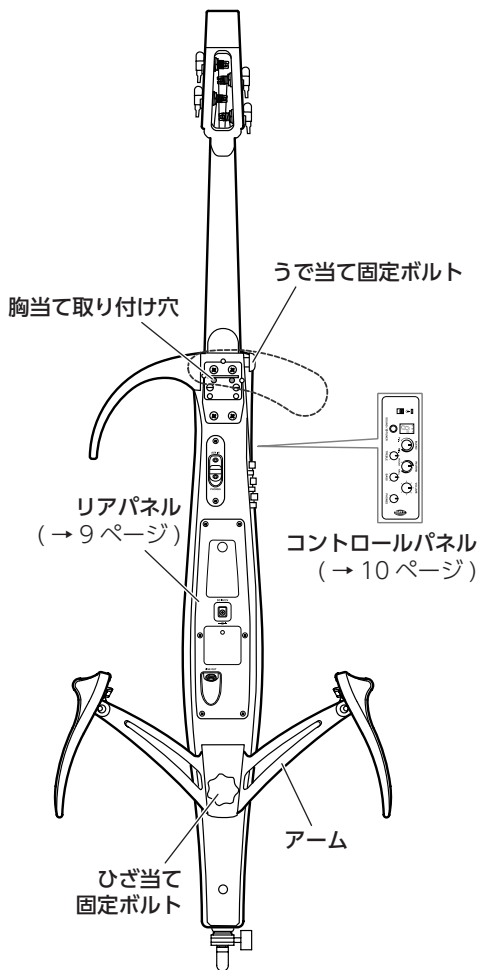
※ 乾電池でご使用になる場合は、単三形乾電池 (アルカリまたはニッケル水素) 2 本が必要です。

各部の名称

● フロント部

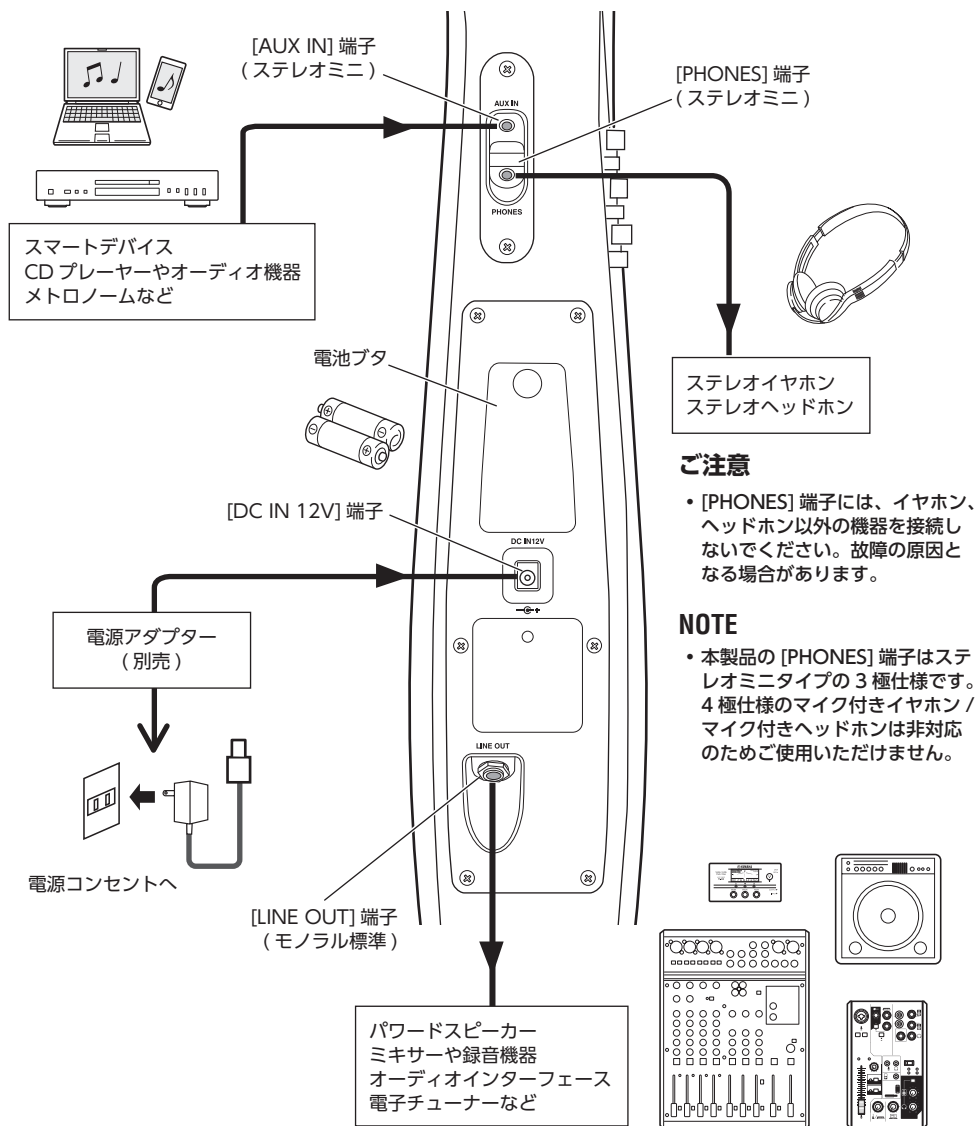


● リア部



● リアパネル

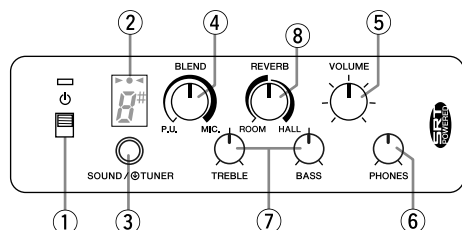
電源供給や外部機器との接続をします。



外部機器と接続する際は、接続端子の形状を確認し、必ず端子の規格に合ったプラグのケーブルを用いて確実に接続してください。

● コントロールパネル

本製品の各機能を一括してコントロールします。



① 電源スイッチ

サイレントチェロ™の電源 ON/ スタンバイを切り替えます。スイッチを入れると本製品は自動的にプレイモード（演奏するためのモード）に入ります。



注意

- 電源 ON/ スタンバイの切り替えは、接続したアンプ・パワードスピーカーなどの出力ボリュームをしばらく電源をスタンバイにした状態で行ってください。
- 電源 ON/ スタンバイの切り替えは、必ずイヤホンやヘッドホンを耳から外した状態で行ってください。

② ディスプレイ

電源 ON / スタンバイの状態やチューニングの状態、電池残量警告などを表示します。

電源 ON：中央の緑丸ランプ点灯 ▶●◀

電池残量警告：三角形ランプが交互点滅



③ [SOUND/TUNER] ボタン

サウンドの選択や、プレイモードからチューナーモードへの切り替え、オートパワーオフ機能の切り替えをします。

■サウンドの選択

本製品に搭載の SRT POWERED システムは『チェロのボディ共鳴音を高品位なマイクロフォンでスタジオ録音したサウンド』をシミュレートして自然なチェロの箱鳴り感を再現します。

ボタンを押すたびに 2 つのタイプのサウンドが切り替わります。(→ 17 ページ)

■チューナーモードへの切り替え

電源 ON 状態でこのボタンを長押しするとチューナーモードに入り本製品だけでチューニングできます。(→ 19 ページ) もう一度押すと元のプレイモードに戻ります。

④ [BLEND] ノブ

本体内蔵のピックアップからの演奏音（原音）と、③ [SOUND/TUNER] ボタンで選択したサウンド（ボディ共鳴のシミュレート音）とを混ぜる割合を調節します。(→ 17 ページ)

⑤ [VOLUME] ノブ

LINE OUT から出力される音量を調節します。

NOTE

- ・[AUX IN] 端子からの音声信号は LINE OUT から出力されません。

⑥ [PHONES] ノブ

[PHONES] 端子に接続したイヤホンやヘッドホンへの音量を調節します。

NOTE

- ・強く弾いた際に音が歪む場合は [VOLUME] [PHONES] ノブを左に回し音量を下げて調整してください。

⑦ トーンコントロール

高音域 / 低音域の周波数特性を調節してサイレントチェロ™の音色（ねいろ）をコントロールします。(→ 18 ページ)

[TREBLE] ノブ：高音域 のレベルを調節します。

[BASS] ノブ：低音域 のレベルを調節します。

⑧ [REVERB] ノブ

2 種類のリバーブ（残響効果）の切り替えと掛かり具合を調節します。(→ 18 ページ)

- **ROOM：**室内で演奏しているようなリバーブ（残響効果）が得られます。
- **HALL：**ホールで演奏しているようなリバーブ（残響効果）が得られます。

演奏準備

■ 調弦をする / 弦の交換をする

出荷時、駒はサイレントチェロ™本体から外してあります。まず駒を本体に正しく取り付けてから、調弦します。



- 弦の先は鋭利になっています。指に刺さないように気を付けてください。
- 弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎないようにしてください。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

NOTE

- 弦は古くなると音質が劣化し、調弦しても音程が合わなくなります。弦が古くなったと感じたら、早めに新しい弦に交換しましょう。

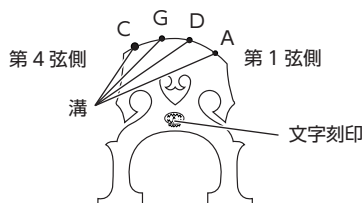
● 駒の立て方

駒は上部の山が低い方が第1弦(A)側、高い方が第4弦(C)側です。

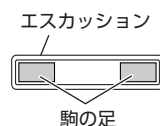
駒の向きは、文字が刻印されている面がテールピース側になります。

1. 向きに注意しながら、駒の足とエスカッションの側面が触れないように駒を設置します。

【テールピース側から見た駒】

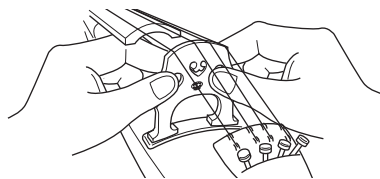
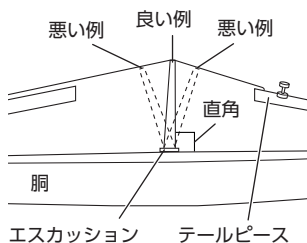


【駒の設置箇所】



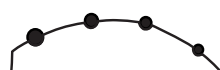
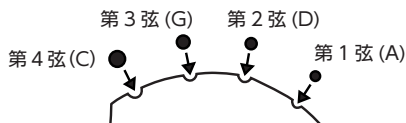
駒の足をエスカッションの側面に接触させない

2. 駒を胴に対して垂直に立てます。傾いている場合は両手でそっと起こします。



駒は垂直に立てる

3. それぞれの弦が駒の溝に収まっているか確認します。



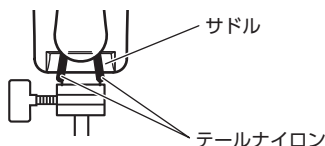
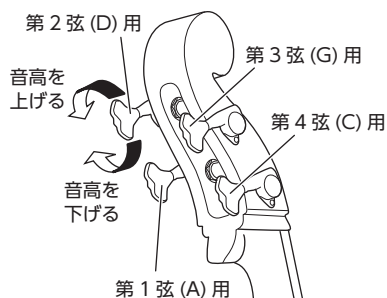
重要!

- ・弦は必ず駒の弦溝にしっかりと収まった状態でお使いください。駒を立てる際や弦を交換する際、弦が弦溝から外れる場合があります。特に第1弦(A)と第4弦(C)は外れやすいので、駒上の弦を指で軽く押さえながら調弦してください。
- ・駒は演奏時、保管時間問わず、常に胴に対して垂直に立てておきます。駒は調弦前にきちんと垂直に立てても、調弦をしている間に傾いてしまう場合があります。また、保管中に傾いてしまう場合もあります。これらの場合は、再度垂直に立つように調整してください。

● 調弦の仕方

第1弦がA音、第2弦がD音、第3弦がG音、第4弦がC音です。

1. ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻を回してチューニングします。このときテールナイロンが正しくサドルの上にのり合わせて調整ください。
2. 必要に応じてテールピースのアジャスターを手で回して微調整します。



ご注意

- ・アジャスターのネジ部をゆるめすぎないでください。ゆるめすぎると演奏時の雑音の原因になります。
- ・駒は常に本体に対して垂直に立った状態であることを確認した上でお使いください。傾いた状態で使用すると、駒の寿命を縮めたり音質が劣化したりする原因となります。

NOTE

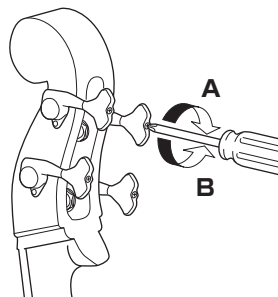
- ・楽器を使用しない時は、弦を1音ほどゆるめてください。また、長時間使用しない場合は、さらにゆるめて保管してください。



● 糸巻のトルクの調整

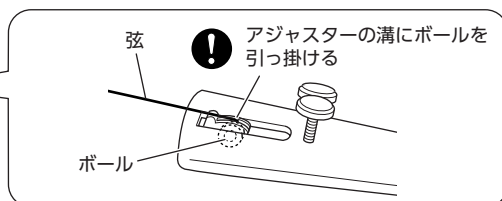
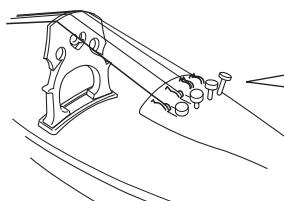
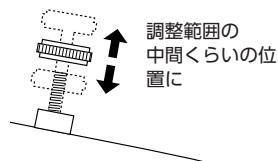
糸巻のねじりの強さ（トルク）は、プラスドライバーを使って糸巻側面のトルク調整ネジで調整できます。

- ・トルクが弱く、軽い接触などで糸巻が回ってしまう場合：
→トルク調整ネジを右（時計方向 A）に回す。
- ・トルクが強く、チューニングがスムーズに行えない場合：
→トルク調整ネジを左（反時計方向 B）に回す。



● 弦の巻き方（弦交換の際にご参照ください）

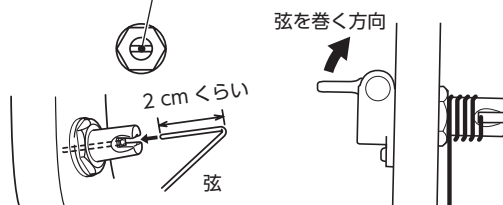
1. 弦を取り付ける前に、アジャスターを調整範囲の中間くらいの位置まで回しておきます。（全弦とも）
2. 弦の端のボールをアジャスターに引っ掛けます。この時、アジャスターの溝にボールを確実に収めてください。



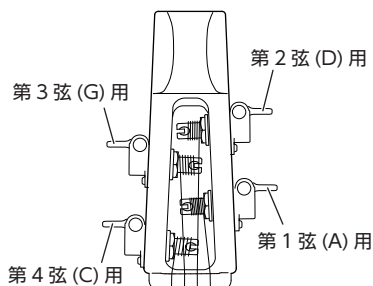
3. 弦の先を 2 cm くらい直角に折り曲げ、糸巻の穴に差し込みます。
4. 弦を駒方向に引っ張りながら糸巻を回し、糸巻の巻芯に弦を巻いていきます。弦は、下図のように巻芯の根元方向に向かって巻いていきます。

この穴に弦を差し込む

【正面側から見た図】



弦を巻く方向

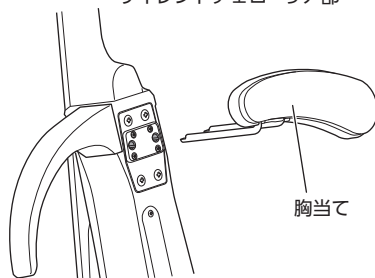


■ 胸当てをつける

胸当ては、チェロを身体にしっかりと固定するための付属品です。

イラストを参考にしながら、リア部の取り付け穴に胸当てのピンをしっかりと差し込んでお使いください。
このとき、胸当ての取り付け方向にご注意ください。

サイレントチェロ™リア部



■ エンドピンを調節する

1. エンドピンストッパーをゆるめ、エンドピンを引き出します。
2. 演奏しやすい高さの位置でエンドピンストッパーをしっかりと締めて固定します。

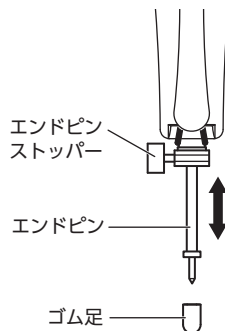
NOTE

- エンドピンの先端にはゴム足が付いていますが、ゴム足を外してエンドピンの先端を床に当てて使用することもできます。



注意

- エンドピンの先端は尖っていますので、取り扱いの際は十分注意してください。
- 演奏中に楽器が落下しないよう、エンドピンストッパーは確実に締めて固定してください。

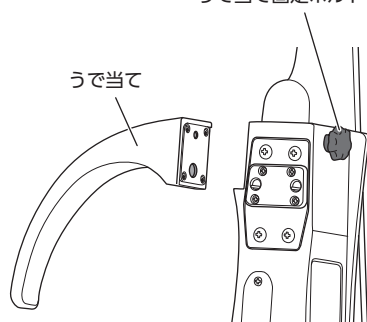


■ うで当てをつける

出荷時、うで当てはサイレントチェロ™本体から外してあります。

1. うで当ての取付面と本体の取付面が平行になるよううで当てをあてがってから、うで当て固定ボルトを締めて固定します。
2. うで当て固定ボルトを確実に締め、うで当てを本体にしっかりと固定してください。

うで当て固定ボルト



ご注意

- うで当てはしっかりと固定してお使いください。ゆるんだ状態でお使いになると、演奏時に楽器が動いたり雑音が発生したりします。
- うで当て固定ボルトを無理に引き抜かないでください。
- 楽器の移動の際、うで当てを持たないでください。必ず棹（ネック）または胴を持ってください。

■ ひざ当てをセットする

出荷時、ひざ当ては折りたたまれています。

演奏の際は、以下の手順でひざ当てを正しくセットしてからお使いください。

1. ひざ当て固定ボルトをゆるめます (3 回転程度)。
このときひざ当て固定ボルトをゆるめすぎないでください。
2. アームを左右とも、止まるまでゆっくりと外側に開きます。
アームが引っ掛かって開かない場合は、ひざ当て固定ボルトをさらにゆるめてください。



注意

- ・アーム開閉の際、指や手などをはさまないように、十分注意してください。

3. ひざ当て固定ボルトを締め、アームが戻らないようにしっかりと固定します。

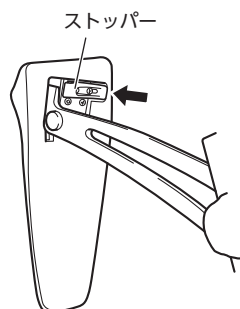
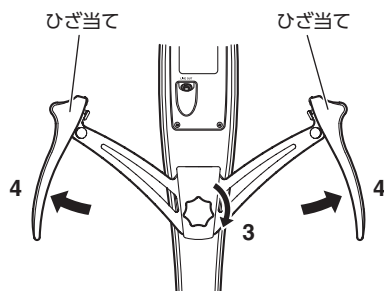
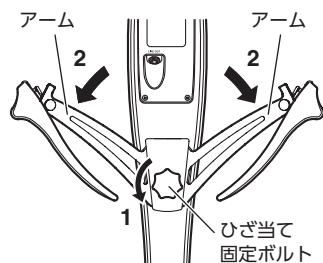
ご注意

- ・ひざ当て固定ボルトは確実に締めてください。ゆるんだ状態でお使いになると、演奏時に楽器が動いたり雑音が発生したりします。
- ・ひざ当て固定ボルトは、必ずアームが完全に開いた状態または完全に閉じた状態で締めてください。それ以外の状態で締めると故障の原因となります。
- ・構造上、アームを閉じた状態でひざ当て固定ボルトを締めても、アームは固定されません。

4. ひざ当てを左右とも、止まるまで外側にゆっくりと開きます。
5. ひざ当て内側のストッパーをスライドさせてアームにかけ、ひざ当てが内側に戻らないようにします。ひざ当て左右のストッパーをそれぞれセットしてください。

これで、ひざ当てのセットは完了です。

ひざ当てを折りたたむ場合は、上記と逆の手順で行ってください。



注意

- ・楽器の移動の際、ひざ当てを持たないでください。必ず棒（ネック）または胴を持ってください。

電源の準備

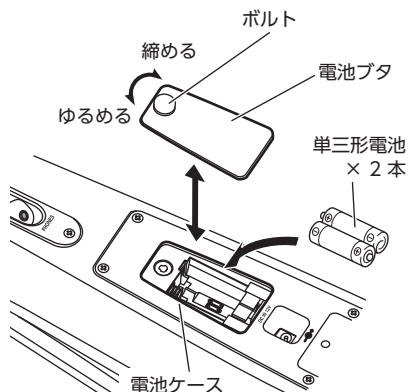
サイレントチェロ™は、電源として電池と家庭用コンセントの両方を使うことができます。電源の準備をする前に、コントロールパネルの電源スイッチをスタンバイにしてください。

■ 電池を使う

1. リアパネルの電池ブタを、ボルトを少しゆるめて外します。
2. 単三形のアルカリ電池またはニッケル水素電池 2本を、電池ケース内部の表示に従い極性を正しくセットしてください。(イラスト参照)
3. 電池ブタをはめ込み、ボルトをしっかりと締めます。

● 電池交換のタイミング

電池残量が少なくなると、ディスプレイの三角形の表示が交互に点滅 (▶◯◀ ⇄ ▶◯◀) しますので、お早めに電池を交換してください。ニッケル水素電池の場合、その製品の放電特性によっては正常に動作しない場合もございます。



警告

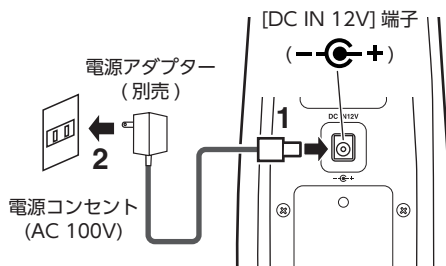
- 電池は 2 本同時に交換してください。また新しいものと古いものを混ぜて使用したり、種類の異なるもの（メーカーの異なるもの、同メーカーでも商品が異なるもの）を混ぜて使用したりしないでください。発熱・液漏れ・破裂などの原因となります。
- 電池を分解したり火の中に入れたりしないでください。
- ニッケル水素電池を繰り返し使用される場合、電池の被覆や端子を傷つけないようバッテリーホルダーへの抜き挿しは注意して行ってください。
- 電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れないでください。万一液が目や口に入ったり皮膚に付いたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師に相談してください。
- 電池は、自治体の条例または取り決めなどに従って廃棄してください。

■ 家庭用コンセントから電源を取る

1. 電源アダプター（別売）をお買い求めください。
 - 指定電源アダプター：PA-3C、PA-130
2. リアパネルの [DC IN 12V] 端子に、図の順番で電源アダプター（別売）を接続します。

NOTE

- 電源アダプターを外すときは、電源を切ってから逆の順序で行ってください。



警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの（指定電源アダプター：PA-3C、PA-130）をご使用ください。他の電源アダプターの使用は、故障・発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、十分にご注意ください。



注意

- 電池が入っている状態で電源アダプターを接続すると、電源は自動的にアダプター側から供給されるようになります。電池の液漏れ防止の為、電源アダプターでご使用になる場合は、電池を本体から抜いておくことをお勧めします。

基本的な使い方

■ ヘッドホンで演奏する

1. コントロールパネルの [PHONES] ノブを左に回して音量を最小にしておきます。
2. リアパネルの [PHONES] 端子にヘッドホンまたはイヤホンを接続します。
3. コントロールパネルの電源スイッチを「ON」の位置（スイッチ上部の小窓が緑色になる位置）まで動かして、電源を入れます。
本製品がプレイモードに入り、ディスプレイのランプが緑色に点灯します。
4. ヘッドホンまたはイヤホンを両耳に装着します。
5. 演奏しながら [PHONES] ノブ回して、適度な音量に調節します。



NOTE

- [VOLUME] ノブを回してもヘッドホンの音量は変わりません。ヘッドホンの音量は [PHONES] ノブで、[LINE OUT] 端子からの音量は [VOLUME] ノブでそれぞれ調節してください。
- 本製品の [PHONES] 端子はステレオミニタイプの 3 極仕様です。4 極仕様のマイク付きイヤホン / マイク付きヘッドホンは非対応のためご使用いただけません。



- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

注意

■ チェロ本来の響きをつける

本製品に搭載の SRT POWERED システムは『チェロのボディ共鳴音を高品位なマイクロフォンでスタジオ録音したサウンド』をシミュレートして自然なチェロの箱鳴り感を再現します。

2つのタイプからお好みのサウンドを選択して自然な響きをつけてみましょう。



- サウンド1：アコースティックチェロの演奏時に「奏者本人が聞いている音」をイメージしたサウンドです。本製品を練習用に使う場合などに最適です。
- サウンド2：アコースティックチェロの演奏を「マイクでレコーディングした音」をイメージしたサウンドです。録音や配信をする場合などに最適です。



SOUND / TUNER

1. サウンドを選択する

電源 ON の状態でコントロールパネルの [SOUND/TUNER] ボタンを押してサウンドを選択します。ボタンを押すたびに 2 タイプのサウンドが交互に切り替わり、ディスプレイに 1 → 2 → 1 ... と番号が表示されます。



2. 自然な響きをブレンドする

本体内蔵のピックアップからの演奏音（原音）と、手順 1 で選択したサウンド（ボディ共鳴のシミュレート音）とを混ぜる割合を調節します。演奏しながらコントロールパネルの [BLEND] ノブでバランスを調節して自然な響きをつけていきましょう。

[BLEND] ノブを左いっぱいに戻すとピックアップからの演奏音（原音）100%、右いっぱいに戻すとボディ共鳴のシミュレート音 100% となります。



■ リバース（残響効果）機能を使う

リバース（残響効果）機能を使って、ホールなどの広い空間で弾いているかのようにサイレントチェロ™を響かせながら演奏してみましょう。

コントロールパネルの [REVERB] ノブを動かして、2 種類のリバースエフェクトの切り替えと掛かり具合を調節します。

ノブを左に回しきった状態でリバースは OFF になります。

右に回していくとリバースの掛かり具合が増えていき、次のエフェクトに切り替わった瞬間に、また掛かりの少ない状態となり、さらに右に回すことでリバースの掛かり具合が徐々に増えていきます。



- ROOM: 室内で演奏しているようなリバース（残響効果）が得られます。
- HALL: ホールで演奏しているようなリバース（残響効果）が得られます。

■ トーンコントロール機能を使う

コントロールパネルの 2 つのトーンコントロールでサイレントチェロ™の音色（ねいろ）を調節してみましょう。

通常は各ノブをセンターにセットし、必要に応じてノブを動かしてお好みの範囲でレベルを増減させます。



[TREBLE] ノブ

高音域のレベルを調節します。本製品に最適化した特徴的な音域をピーキングで増幅または減衰できます。

- 右に回すと音にエッジが立ち、アンサンブルの中で埋もれにくい硬質なトーンになります。
- 左に回すとチェロらしい音の特徴を残しつつも柔らかいトーンになります。

[BASS] ノブ

低音域のレベルを調節します。第 4 弦 (C) の鳴りに影響する音域をピーキングで増幅または減衰できます。

- 右に回すと第 4 弦 (C) の鳴りが増強され、箱鳴り感のあるトーンになります。
- 左に回すと第 4 弦 (C) の鳴りが抑えられ、他の低音楽器と競合しないタイトなトーンになります。

■ チューナーを使う

プレイモードからチューナーモードに切り替えると本製品だけでチューニングができます。

● チューニング

1. 電源が ON の状態で [SOUND/TUNER] ボタンを約 1 秒押してから離すと、チューナーモードに入ります。

チューナーモードに入ると LED 表示が ▶●◀ のように点灯します（チューナー待機状態）。

NOTE

- [SOUND/TUNER] ボタンを 5 秒以上押し続けてしまうと、チューニングモードではなくオートパワーオフ機能の切り替え（20 ページ）に移行しますのでご注意ください。

2. 合わせたい音名がディスプレイに表示されるように、サイレントチェロ™をチューニングします。

NOTE

- チューナーモード時は、サイレントチェロ™の音は出力されません。

3. ▶◀中央の○だけ点灯すると、チューニングが合った状態です。



4. [SOUND/TUNER] ボタンを短く押すと、プレイモードに戻ります。

NOTE

- [SOUND/TUNER] ボタンを押した後、判別した音名を表示するまでに数秒かかることがあります。
- チューニングを連続的に変化させると、音名やマークの表示が音の変化に追従できないことがあります。チューニングの際は、段階的に音を調整、確認しながら行ってください。
- 倍音を多く含んだ音や減衰の速い音については、測定できない場合があります。

● キャリブレーション（基準ピッチの変更）

チューナーの基準ピッチを A=438 ～ 445 Hz の範囲で設定することができます（初期設定：442 Hz）。

1. チューナーモードに入った状態で [SOUND/TUNER] ボタンを約 1 秒以上押し続けると、現在の基準ピッチの下一桁の数字が 3 秒間表示されます。
2. 下一桁の数字が表示されている間に [SOUND/TUNER] ボタンを押すと、基準ピッチが 442 Hz（初期値）→ 443 Hz → 444 Hz → 445 Hz → 438 Hz → 439 Hz → 440 Hz → 441 Hz → 442 Hz → ... というように 1 Hz ステップで切り替わっていきます。
3. 希望の基準ピッチを選択し約 3 秒間待つと、ピッチが確定されて表示が消え、通常のチューナーモードに戻ります。

NOTE

- キャリブレーションの設定値は、電源をスタンバイにしても保持されます。
- キャリブレーションの設定の際、3 秒以上放置するとピッチが確定されて自動的に通常のチューナーモードに戻ります。設定を続ける場合にはあらためて手順 1 から再開してください。

■ オートパワーオフ機能を切り替える

本製品には、無駄な電力消費を防ぐため、20 分間以上無音状態が続いた場合、自動的に電源が切れる（オートパワーオフ）機能が内蔵されています。オートパワーオフ機能により電源 OFF となった場合でも、再び電源スイッチを ON にすれば通常通りに使用可能です。

NOTE

- ・出荷時はオートパワーオフ機能が ON（有効）になっています。

● オートパワーオフ機能 ON（有効）-OFF（無効）の切り替え

電源 ON になっている（プレイモード）状態で、[SOUND/TUNER] ボタンを 5 秒以上押し続けると機能 ON（有効）-OFF（無効）の切り替えができます。

- ・機能 ON（有効）の状態で上記操作を行うと、ディスプレイのランプが全部赤く点灯した状態から 1 個ずつ消灯していき、機能 OFF（無効）に切り替わります。



- ・機能 OFF（無効）の状態で上記操作を行うと、ディスプレイのランプが 1 個ずつ赤く点灯していき、機能 ON（有効）に切り替わります。



NOTE

- ・本体には最後に設定した内容が記憶されます。機能 OFF（無効）の状態で電源を ON にすると、上記の機能 OFF（無効）のディスプレイ表示が行われてから通常のプレイモードの緑色の点灯に移行します。

■ 演奏を終了する

使用後は、電源スイッチをスタンバイの位置にずらして、本体の電源を切ります。ディスプレイランプが点滅→消灯すれば動作完了です。

NOTE

- ・再度電源を ON にするときは、上記のディスプレイランプが点滅→消灯の動作が完了してから電源スイッチを動かしてください。

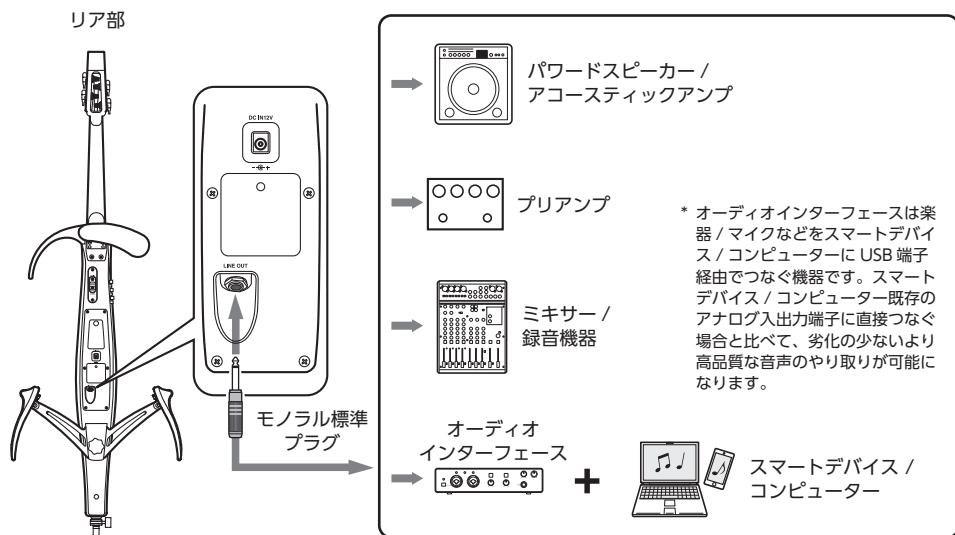
もっと進んだ使い方

■ 外部機器に音を出力して演奏する

リアパネルの [LINE OUT] 端子は、外部機器へモノラル音声信号を出力する端子です。外部機器と音声ケーブルで接続することで、例えば次のような使い方ができます。

- ・ アンプ / スピーカーから音を出して自宅やステージで演奏
- ・ ミキサー / 録音機器 / 音響機器と接続して演奏の録音やステージでの拡声
- ・ オーディオインターフェース * 経由でスマートデバイス / コンピューターと接続して演奏の録音やライブ配信

1. 接続するすべての機器の電源を切ります。
2. 下記の接続例を参考にして、本製品と外部機器をケーブルで接続します。
このとき、すべての機器の音量を下げてください。



3. 接続が済んだら、本製品⇒外部機器の順番に電源を入れます。
4. 本製品⇒外部機器の順に音量を上げて適切に調節します。



注意

- ・ サイレントチェロ™を外部機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った状態で接続してください。また、外部機器の音量を最小にしてから接続してください。大音量で聴覚障害を起こしたり、機器を損傷するおそれがあります。
- ・ 電源が入った状態で接続ケーブルが抜けないように注意してください。機器の損傷や耳への衝撃などのおそれがあります。
- ・ ケーブルを踏まないように注意してください。ケーブルの断線や、接続の外れによる機器の損傷、耳への衝撃などのおそれがあります。

ご注意

- ・サイレントチェロ™の出力端子から送る音声信号を、直接、または外部機器を経由してサイレントチェロ™の [AUX IN] 端子に、絶対に戻さないでください。発振を起こし、内部機器の損傷の原因になります。
- ・外部機器と接続する際は、接続端子の形状を確認し、必ず端子の規格に合ったプラグのケーブルを用い、確実に接続してください。
- ・[LINE OUT] 端子にパワードスピーカーを接続した際、パワードスピーカーの能力によっては低音が歪む場合があります。パワーに余裕のある 50W 以上のモデルをお使いになることをおすすめします。
- ・音が歪む場合は、[VOLUME] ノブを左に戻して音量を下げてください。

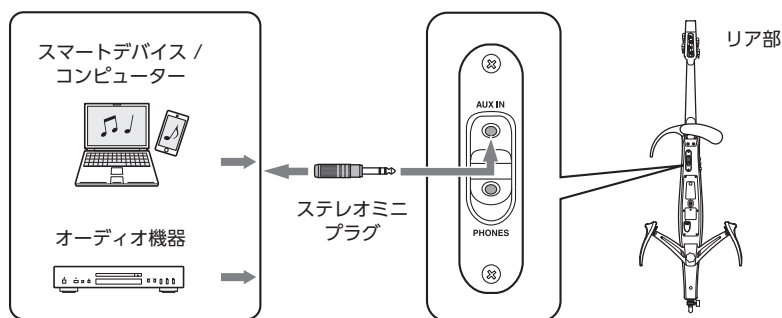
NOTE

- ・[AUX IN] 端子からの音声信号は [LINE OUT] 端子から出力されません。

■ スマートデバイスなどの音楽と合わせて演奏する

リアパネルの [AUX IN] 端子は、外部機器からのステレオ音声信号を入力する端子です。音楽プレーヤーなどのオーディオ機器やスマートデバイスの出力端子と音声ケーブルで接続すれば、外部機器で再生された音楽をバックに練習することができます。

1. [PHONES] ノブでヘッドホンの音量を最小まで下げておきます。
2. 下記の接続例を参考にして、本製品と外部機器をケーブルで接続します。



3. 外部機器の電源を入れます。
4. 外部機器で音楽を再生させながら外部機器の音量を適宜上げていきます。
5. [PHONES] ノブでヘッドホンを適切な音量に調節します。

NOTE

- ・[AUX IN] 端子からの音声信号は [LINE OUT] 端子から出力されません。

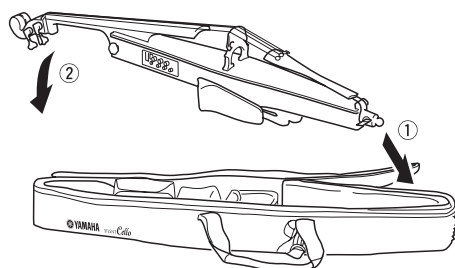
付属ソフトケースについて

付属ソフトケースは、本製品専用のものです。

プロテクター（ケースに付属）を装着することにより駒を装着した状態のままケースに収納し、持ち運ぶことができます。

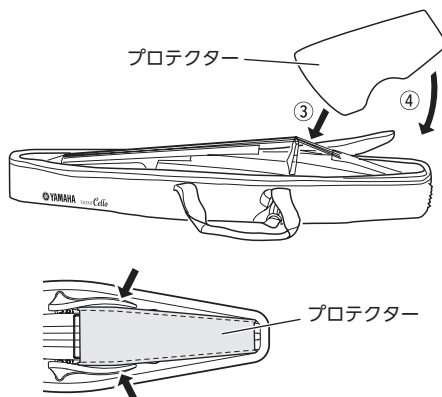
● チェロ本体の挿入

1. ひざ当ては折りたたみ、胸当てとうで当てを本体から取り外します。
エンドピンは本体内に収納した状態で、エンドピンストッパーを締めて固定します。
2. エンドピン側を先にソフトケースに入れ①、次にヘッド側をソフトケースに入れます②。



● プロテクターのセット

1. プロテクターの駒側を先に、本体の駒とひざ当ての間にナナメに差し込みます③。
2. プロテクターのエンドピン側を上から静かに押し込みます④。

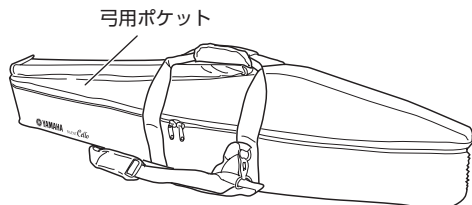
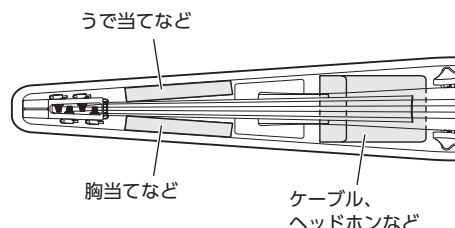


ご注意

- ・プロテクターは、あくまで移動の際に生じる軽度の衝撃から保護するためのものです。プロテクター面を下にして置いたり、物を乗せる、ぶつけるなど、衝撃を与えることは避けてください。

* プロテクターは、駒など各部品の損傷を保障するものではありません。

● 収納ポケット



* 弓用ポケットに弓を収納する際は、必ず弓ケースに入れた上で、ご使用ください。

本体仕様

棹 (ネック) :メイプル

胴 :スプルース / メイプル

指板 :エボニー

駒 (ブリッジ) :メイプル (Aubert)

糸巻 :ウォームギア方式

フレーム :成型合板

テールピース :アジャスター 4 ピース (Wittner)

弦 :ボールエンドタイプ・チェロ弦 (Helicore)

センサー :駒下配置方式ピエゾピックアップアップ

操作子 :

- POWER (ON/ スタンバイ)
- VOLUME
- PHONES
- SOUND/TUNER
- BLEND
- REVERB (ROOM/HALL)
- TREBLE
- BASS

入出力端子 :

- LINE OUT (ϕ 6.3 モノラル標準)
- PHONES (ϕ 3.5 ステレオミニ)
- AUX IN (ϕ 3.5 ステレオミニ)
- DC-IN

電源 :

- 電池 : 単三形アルカリ電池 (LR6) またはニッケル水素電池 $\times$ 2 本
- 電源アダプター (別売) : Yamaha PA-3C、PA-130 (出力 : DC12 V/700 mA)

消費電力 : 1.3 W

待機電力 : 0.1 W

電池寿命 (連続使用時間) :

- アルカリ乾電池 : 7 時間 30 分
 - ニッケル水素電池 (2,500 mAh) : 9 時間 30 分
- * 使用条件により異なります。

弦長 : 690 mm

寸法 : 1,251(L) $\times$ 438(W) $\times$ 243(H) mm
(胸当て含まず)

質量 : 3.6 kg (乾電池および胸当て含む)

* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。



Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<https://download.yamaha.com/>

YAMAHA CORPORATION

10-1 Nakazawa-cho, Chuo-ku,
Hamamatsu, 430-8650 Japan

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

© 2025 Yamaha Corporation

Published 07/2025

2025 年 7 月 发行

IPID-A0

制造商：雅马哈株式会社

制造商地址：日本静岡県滨松市中央区中沢町 10-1

进口商：雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司

进口商地址：上海市静安区新闻路 1818 号云和大厦
2 楼

原产地：日本



VHM1410